



報道関係各位

3 万年前の航海 徹底再現プロジェクト

主催：国立科学博物館

協力：与那国町 沖縄県立博物館・美術館 NPO 法人国境地域研究センター 石垣市 竹富町
竹富町教育委員会

後援：沖縄県 沖縄県教育委員会

オフィシャル・サポーター： JAL/JTA/RAC ルミネ

7 月 5 日の記者会見の概要をお知らせします

7 月 5 日（火）に与那国町久部良ナーマ浜にて、7 月 12～15 日に予定している本年度の実験航海（与那国島 → 西表島）のねらいと準備状況について説明いたしました。このリリースでは、その概要をお知らせいたします。

主な内容

- ・ 草舟の浮力は予想以上。荷物（水・食料）も含めて 7 人乗りも可能
- ・ 西表島までの航海は 30 時間超の見込み
- ・ 7 月 11 日会見・出発地変更のお知らせ
- ・ 台風の影響について

出席者（プロジェクトメンバー）

海部陽介（国立科学博物館人類研究部、プロジェクト代表）

内田正洋（東京海洋大学講師、航海指導）

村松 稔（与那国町教育委員会、漕ぎ手候補）

実験航海の目的

本プロジェクトでは、「3 万年前の日本列島における祖先たちの海へのチャレンジを、可能な限り学術的に探求し、それを自ら体験して理解する」ことを目標としております。

その中で本年度の与那国島 → 西表島航海（直線距離で 75 km、蛇行することも考慮すれば約 90 km）では、「漕ぎ舟としての草舟モデル」を実践して、その妥当性を検証します。

本計画では、竹筏などいくつかあり得る仮説のうち、上記モデルを選択することとしました。その理由は、地元（与那国島）で材料が得られ、旧石器時代の想定できる技術でそれらの素材の

加工が可能であることに加え、通常の竹筏よりも速い漕ぎ舟ができるのではないかと予測に基づくものです。

準備状況： テスト用舟の製作とテスト結果

本番用の草舟をつくる前に、舟を1艘つくって航行テストを行いました。テスト用舟サイズは長さ6.4m、幅1.3mで、速力と積載量（浮力）が上がるように、石川仁氏の案をもとにいくぶん特別な設計をほどこしました。テスト結果を受けて、本番用の舟の設計や乗船する漕ぎ手の数を決め、西表島までの航海の所要時間を見積もります。

テストの1つとして進水後7日間、草舟を海上に浮かべておりましたが、この間に15cmほど沈んだものの、なお8名の大人を十分に支えて運ぶ浮力がありました。漕ぎ手は当初5人と考えていましたが、人数を増やした方が速力が上がるという測定結果が得られたので、7人に増員する方針です。これはたとえ速力が同じでも、乗船者数が多い方が移住には有利であるという考えに基づく選択です。

体力を温存する長距離向きの漕ぎ方で、テスト用舟のスピードは人の歩行速度（時速4km）より遅い時速3kmほどでした。このスピードを維持できると仮定しつつ、短い休憩時間を考慮すると、西表島到着までの所要時間は30時間超となる見通しです。

漕ぎ手候補

八重山にあった太古のチャレンジの再現に、主に八重山（与那国島と西表島）在住の若者たちが、舟の作り手および漕ぎ手として挑みます。各候補者たちの舟漕ぎ経験はまちまちですが、誰一人として今回のような長時間を漕ぎ舟で航海した経験は持っていません。3万年前の祖先たちの初めての長距離・長時間航海へのチャレンジがどのようなものであったか、同様にはじめての壁に挑む漕ぎ手の彼らがヒントを与えてくれるかもしれません。

舟作りとともに、漕ぎの能力が航海の成功を大きく左右しますので、候補者たちは現在も様々な漕ぎトレーニングを続けています。

ナビゲーション（海上でどうやって進路を決めるか）

草舟の進路は、3万年前の状況にならって草舟の漕ぎ手たちが決めます。伴走船からは指示しません。夜間や、日中でも目標の西表島が目視できないときには、太陽や星の位置、風向きなどの自然現象を利用して方角を知ります。

航海の装備

◆ 櫂

旧石器時代の櫂については手がかりが全くないため、縄文時代にあったタイプの櫂を流用することにしました。

◆ 衣装

熱中症などの健康被害のリスクを軽減することを最優先し、現代の帽子や衣服を着用することとしますが、日光対策の1つとして、島で民芸品によく使われるクバの葉から作った簡単な蓑を利用する方針です。

◆ 積荷

草舟に最低限積むべき荷は、食料・飲料および予備の糧です。3万年前の食料や飲料の運び方は不明なのであえてこれを再現しようとはせず、現代の漕ぎ手たちがある程度食べなれたものを中心に選ぶ方針です。

出航地を変更します

出航予定地を、島の北側で町役場のある祖納のナンタ浜とお知らせしておりましたが、島の南側で比川に近いカタブル浜とすることにしました。町からは離れますが、こちらの方が目的地への距離が若干短縮され、潮流の状況や風向きの上でも有利です（南風が吹く季節なので舟を目標より南へ向けて漕ぐことになるため）。

なお西表島の到着予定地は、公式ホームページ「報道の方へ」のメニュー内にある取材要領に記載のとおりです。

この先のスケジュールと台風の影響

現在のところ、公式ホームページにあるスケジュールに大きな変更はございません。

気象庁によると勢力の強い台風1号が発生しており、7月8日午前頃に八重山地方を直撃する見込みです。草舟の製作を室内に移動することになりますが、7月12～15日に予定している西表島航海に影響はないものと思われま

<https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>

お願い：プロジェクトの公式サイトをご紹介します

記事配信にあたっては、本プロジェクトの重要な情報源である下記公式サイトをご紹介します。URLを記さなくとも、「国立科学博物館のサイト内にある公式ホームページ」のような表現で結構です。

<http://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/index.html>

※情報源として下記もご紹介します

公式フェイスブック・ページ

<https://www.facebook.com/koukaiproject/>

本件の内容についてのお問合せ：

海部陽介

プロジェクトチーム代表、国立科学博物館人類史研究グループ長

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

E-mail: kaifu@kahaku.go.jp

その他のお問合せ：

国立科学博物館研究活動広報担当

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8901 (代表)、029-853-8903 (直通)

E-mail: outreach@kahaku.go.jp

画像提供

今回の報道用に下の資料・画像を提供できます：

・クレジット表記：国立科学博物館「3万年前の航海 徹底再現プロジェクト」 ただし短縮したい場合は“国立科学博物館”を削除して構いません。

・写真は全て、本年7月の活動中に与那国島で撮影したものです。

ご利用の際には「outreach@kahaku.go.jp」までご連絡ください



草舟製作の様子



完成したテスト用舟



漕ぎ指導の様子



外海でのテスト航海



外海でのテスト航海



外海でのテスト航海